非常通報装置

WhiteLock22

取扱説明書

製品をお使いになる前に、本書をお読みください

はじめに（必ずお読みください）

この度は、非常通報装置「WhiteLock22（ホワイトロック 22）」をご利用頂きまして、誠にありがとうございます。
「WhiteLock22」は、一般電話回線を使用する非常通報装置です。人体検知型赤外線センサーの検知、接点入力、押しボタンにより一般電話回線から、携帯電話機、PHS、一般電話機などに自動通報する装置です。
通報は呼出音を鳴らすだけのタダ電通報、相手が出るまで（受話器を上げるまで）、相手が出て「＃」を押すまで、の三通りから設定することが出来ます。通報先が話中や圏外でも電話が繋がるまで発信を繰り返すなど確実に通報するための数々の機能が組み込んであります。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、内容を理解して正しくお使いください。この説明書はお読みになった後も、本製品の側などいつも手元においてお使いください。

本製品は、ご購入直後の状態ではそのまま使用することができません。本書を読んで設定を行ってください。設定後は本書の説明にしたがって動作確認をしてからお使いください。

製品バージョンの確認や最新情報

製品のバージョンアップ及び特殊仕様のリリース情報は、ホームページでお知らせします。

雷による故障について

雷による故障は保証期間内であっても保証対象外となります。
対策として、回線側に業務用の避雷器を取り付ける事をおすすめします。弊社では避雷器を販売しておりませんので別途ご用意下さい。

製品の最新情報、バージョンアップはインターネットでご確認できます。
製品ホームページ　http://www.adocon.jp/

※本書にある、図や写真は実際のものとは多少形状が異なる場合がありますのでご了承ください。
※本書に記載されている内容は、予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

特　徴

- 3 種類のセンサー
  ○赤外線センサーユニット
  ○接点入力ユニット
  ○押しボタンユニット
  お客様の用途に合ったものを 3 種類から選ぶことが出来ます。

- 選べる通報方法
  ○「タダ電通報」・・・呼出音を鳴らしてすぐ電話を切りますので通話料金はかかりません。
  ○「通報先が受話器をあげるまで」・・・通話料金がかかります。
  ○「通報先が受話器を上げて＃を押すまで」・・・通話料金がかかります。
  3 種類から設定を選ぶことが可能です。

- 簡単設置
  既にある家庭のモジュラージャックと電話機の間に本製品を取り付けます。
  無線ユニットは壁や天井などにマジックテープで付けると簡単に取り外し可能です。

- 交換機（PBX）でも使用可能
  本装置は音（DTMF）で電話がかかった、つながった、切れた、話中などを判定しますので、極性反転機能のない交換機（PBX）でも使用可能です。

- 簡単設定
  本装置と電話機を並列に繋ぎ、プッシュボタンで設定を行います。

- 無検知時間の設定：一定時間センサーが検知しない時に通報することも可能
  一人暮らしの老人宅の廊下やトイレに赤外線センサーを取り付けておき、指定時間センサーが検知しなかった場合に通報させることも可能です。

目　次

ご使用の前に

略称、商標について

記載の会社名または製品名は各社の登録商標です。

⚠ 注意事項

● 通報先の呼出音は設定回数以上鳴る場合があります。
● 通報終了後本装置は、無線ユニットが 60 秒間検知しなくなるまで待機する為、連続通報はしません。
● 「タダ電通報」設定は、相手が電話に出たまま 30 秒経過すると自動的に回線を切断します。この時、WhiteLock22 が呼出音を 1 回でも確認していれば正常通報とします。
● 設定はトーン信号が発信できる電話機で行ってください。
● 使用できる電話回線は NTT 仕様の 2 線式のプッシュ回線またはダイヤル回線です。
NTT 準拠のアナログポートに繋いで下さい。
例えば　ISDN 回線・ADSL 回線・ひかり電話・IP 電話・PBX
＊それぞれ専用の信号変換機器やモデム又は TA（ターミナルアダプタ）等のアナログポートに接続します。
● 携帯電話機、PHS、ビジネスホン回線、ホームテレホン回線、4 線式電話機、専用線に接続することは出来 ません。接続すると故障する場合がありますのでご注意下さい。
● PBX（内線交換機）で使用される場合は、下記の全ての条件と一致するか確認してください。
※交換機を管理されている業者、又はメーカーで確認出来ます。
◆ 受話器を上げたとき
DT（発信音）…400Hz の連続
または、PDT（内線発信音）…400Hz　0.25 秒 ON　0.25 秒 OFF が聞こえること。
◆ 相手が話中のとき
BT（話中音）…400Hz　0.5 秒 ON　0.5 秒 OFF が聞こえること。
◆ 相手を呼び出しているとき
RBT（呼出音（プルプル音））…400Hz　1 秒 ON　2 秒 OFF が聞こえること。
◆ 相手が電話を切断したとき
BT（話中音）…400Hz　0.5 秒 ON　0.5 秒 OFF が聞こえること。
● 本製品は日本国内での使用を目的に設計されています。国外でのご利用は出来ません。
● 電源スイッチを OFF にした直後に ON にすると内部 CPU が正しく起動しないことがあります。電源スイッチを OFF にしてから再び ON する際には、OFF の後 3 秒以上待って ON にしてください。
● 無線のチャンネルは 1 つだけです。
※同一のエリアで複数の無線ユニットを設置することは出来ますが、どの無線ユニットが検知したかを識別することはできません。

安全にお使いいただく為に必ずお守りください

本製品は以下の注意事項をよくお読みいただき正しくお使いください。間違った使い方をされますと、感電や火災、機器の故障が発生する恐れがあります。安全にお使い頂くため必ずお守りください。

- 本製品を人命に直接関わる医療機器のような、極めて高い信頼性や安全性を必要とされる設備には接続しないで下さい。
- 本製品の故障、誤作動、不具合、あるいは停電等の外部要因によって生じた損害につきましては、弊社は一切その責任をおいかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本体もしくはそれに接続されている部分から異臭、又は過熱、煙が出る場合は、直ちにご使用を止め、電源を切り、取り外してお買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。
- 本体、及び付属機器を分解・改造しないでください。
- 本体は、屋内での使用を前提に設計されています。屋外でご使用の際には使用条件定格内になるように工夫してご使用ください。
- 本体内部に異物等が入らないようにご注意ください。
- AC アダプタは必ず付属のものをご使用ください。他の製品の流用は絶対にお止め下さい。
- 通報装置は、正しい電話番号が設定されているかどうか認識できません。従って、誤った電話番号を設定されますと、内容によっては多額の電話代がかかる場合があります。必ずご利用の前には、設定後の動作試験を実施して下さい。また通報先の電話番号解約や変更の際にも、通報装置の設定修正・動作試験を必ず行ってください。

設置場所について

本体や無線ユニットを次のような場所に設置しないで下さい。動作が不安定になるなど、おもわぬ火災や故障の原因となる場合があります。

- 屋外。
- 急激な温度変化や湿度変化がある場所。
- 結露するような場所。
- 直接日光があたる場所。
- 水気、火気のある場所。
- 粉塵等の埃の多い場所。
- 不安定な場所や振動がある場所。
- 強い磁気や電磁波を発生する機器の近く。
- 腐食性ガスのある場所。
- 気化した薬品や化学反応をおこすような場所、空気中に塩分が含まれている場所。

お願い

本書に接続する電話機の設定などは、電話機に付属の説明書をお読みください。
本体やケーブル等は、小児の手が届かない場所に保管、設置してください。
長期間にわたって無人で使用する場合は、必ず定期的に保守・点検を行ってください。

パッケージ内容

本製品のパッケージ内容は、下記の通りです。お買い上げ商品についてご確認いただき、万一不足するものがございましたらお手数ですが、お買い上げの販売店、または弊社までご連絡ください。

WhiteLock22 本体

AC アダプタ　　モジュラーケーブル

無線ユニット
ご使用用途に応じてお選びください。

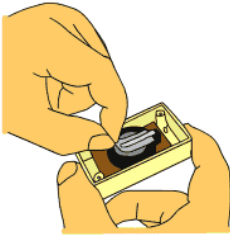
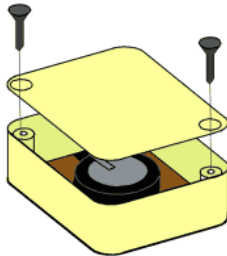
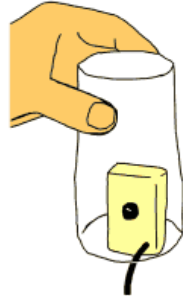
押しボタン無線ユニット　　赤外線センサー無線ユニット　　接点入力無線ユニット

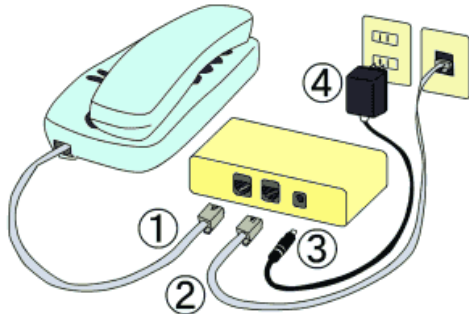
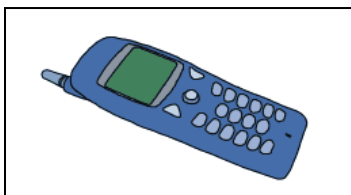
※上図は、実際のものと多少形状等が異なる場合がありますのでご了承ください。
※取扱説明書は本製品には付属しておりません。
　取扱説明書は製品のページから最新版をダウンロードしてお使い下さい。
　製品サイト　　http://www.adocon.jp/
　取扱説明書（A5 版）を別途購入して頂くことも可能です。ご購入の際には販売店、または弊社までお問い合わせ下さい。

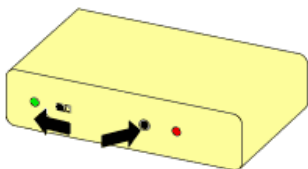
使ってみよう

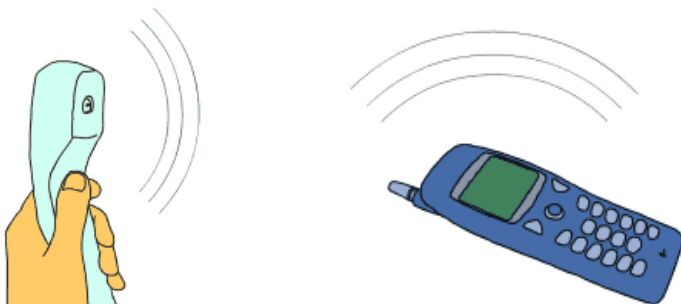
無線ユニットの準備

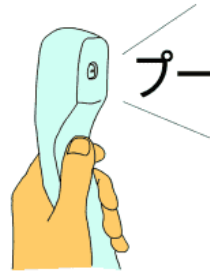
※ここでは赤外線センサーユニットを使用します。
※③は必ずガラスで行って下さい。アクリルやプラスチックなどはセンサーが検知する場合があります。

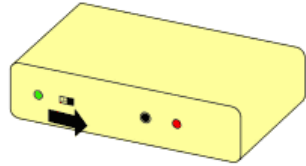
①電池に挟んであるプラスチック板を取り外します。

②裏蓋を２本のビスで閉めます。

③センサーが検知しないようにガラスのコップを被せておきます。

本体の接続

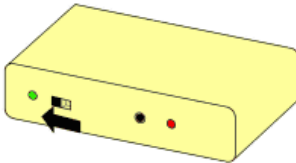
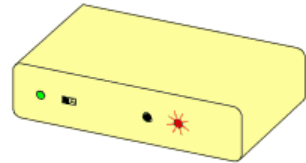
① 電話機のモジュラーケーブルを差します。
② 電話回線を付属のモジュラーケーブルで接続します。
③ AC アダプタのプラグを差します。
④ AC アダプタをコンセントに差します。

通報先となる携帯電話の電話番号の登録

※　例として通報先を携帯電話とし、電話番号は「×××××××××××」とします。
通報を受ける電話機は、固定電話、携帯電話機、PHS、その他電話の受けられるものであれば設定可能です。

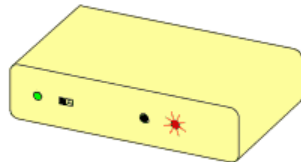
①WhiteLock22 本体の設定ボタンを押しながら電源スイッチを ON にします。

②電話機の受話器を上げ、「×××××××××××」とダイヤルします。

③電話がかかり受話器から呼び出し音が聞こえます。携帯電話機も鳴ります。
※この時、呼出音が鳴らない場合でも大丈夫です。（例えば携帯電話機の電源が切ってある場合や、圏外の場合）

④呼出音が鳴ったら「＃＃」を押します。
※この時、呼出音が鳴らない場合でも大丈夫です。（例えば携帯電話機の電源が切ってある場合や、圏外の場合）

⑤受話器から「プー」とう音が 0.5 秒聞こえたら設定完了です。

⑥受話器を置きます。

⑦WhiteLock22 本体の電源スイッチを OFF にします。

通報させてみる

①WhiteLock22 本体の電源スイッチを ON にします。

②動作ランプが 10 秒間点灯します。消灯するまで待ちます。

③動作ランプが消灯したら、センサーに被せてあったコップを取ります。

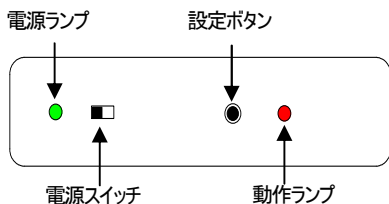
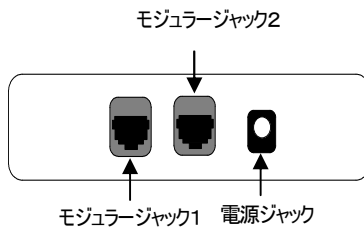
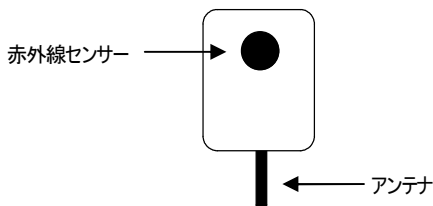
④センサーが検知すると通報し始めます。同時に動作ランプが点灯します。

⑤通報先である携帯電話が鳴ります。

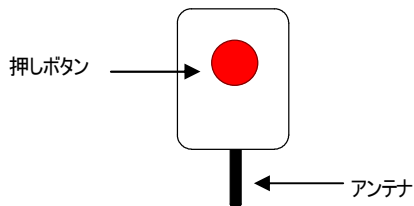
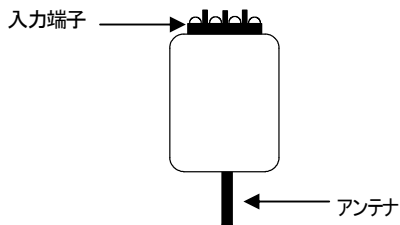
※設定の詳しい方法は19ページを参照してください。

※説明どおりに動作しない場合は「＃9」で設定を初期化してから、もう一度行ってください。

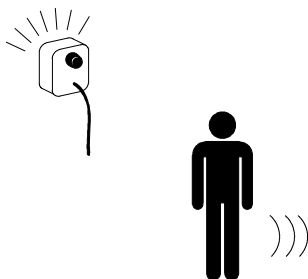
各部の名称とその機能

【本体前面】

電源ランプ
設定ボタン
電源スイッチ
動作ランプ

【本体背面】

【赤外線センサーユニット】

【押しボタンユニット】

【接点入力ユニット】

通報について

どうやって通報を知るのか

「赤外線センサーユニット」は赤外線を検知したときに通報を行います。
「押しボタンユニット」はボタンが押されたときに通報を行います。
「接点入力ユニット」は入力端子が短絡したときに通報を行います。

呼出音を鳴らすだけですので、着信履歴が残る電話機に通報するようにして下さい。
一般回線電話機で通報を受ける場合、通報先の回線で「ナンバー・ディスプレイ」サービス（有料）に加入してください。ナンバー・ディスプレイ対応の電話機で通報元の電話番号を「WhiteLock22」という名前で登録しておくと、通報があって着信したときに電話機のディスプレイに表示されます。
※ナンバー・ディスプレイに関するお問い合わせは、局番なしの 116 番におかけください。

携帯電話機で通報を受ける場合は標準で着信履歴が残ります。
携帯電話機の電話帳に通報元の電話番号を覚えやすい名前で登録してください。
通報先に電話番号が表示されない場合、本体が接続してある回線が「通常非通知」になっています。この場合は、通報先の電話番号を登録するとき、電話番号の最初に「186」をダイヤルしてください。
※番号通知方法が「通常非通知」になっているかどうかは電話会社へお問い合わせください。

通報の種類

タダ電通報

初期値では呼出音を鳴らすだけのタダ電通報になっています。呼出音を鳴らすだけなので通話料金はかかりません。使い方は通報先の着信履歴に記録されるのでそれを見て確認します。
通報元の電話機に呼び出し音が聞こえる前に相手が出た場合は30秒後に電話を切り、また電話をかけます。また、電話機によっては、呼出音を鳴らさずに電話を取る場合があります。その場合は料金が掛ってしまいますので、ご注意ください。たとえば、携帯電話の留守番電話サービスやドライブモードなどです。

相手が出るまで呼び出す

「＃81」で設定すると、相手が出るまで呼出音を鳴らします。30秒経過しても相手が出ない場合は、電話を切って、また電話をかけます。電話に出ると「ピポパ」と繰り返し音がします。音を確認したら電話を切ってください。通報が終了します。
電話に出てから120秒以内に電話を切らなければWhiteLock22は電話を切って、また電話をかけます。
相手が話中だったり、携帯電話の電源を切っていたり、電話に出ても「ピポパ」が聞こえる前に電話を切ってしまった場合、通報終了にはなりません。WhiteLock22は通報が終了するまで何回も電話をかけます。詳しい設定方法は21ページの「設定一覧」をご覧ください。

相手が出て「＃」が押されたら通報終了

「＃82」で設定すると、相手が出るまで呼出音を鳴らします。30秒経過しても相手が出ない場合は、WhiteLock22は電話を切って、また電話をかけます。電話に出ると「ピポパ」と音がします。音を確認したら「＃」を押してください。「＃」が押されたら「ピポパ」の音が鳴り止みます。（「ピポパ」の音が鳴り止むまで何回か「＃」を押してください。）音が鳴り止んだら電話を切ってください。通報が終了します。電話に出てから120秒以内に「＃」を押さなければ、WhiteLock22は電話を切って、また電話をかけます。詳しい設定方法は21ページの「設定一覧」をご覧ください。

通報条件

センサー検知で通報

初期値ではセンサーが検知したら通報する設定になっています。
○赤外線センサー・・・赤外線センサーが検知したときに通報
○押しボタンセンサー・・・ボタンが押されたときに通報
○接点入力センサー・・・接点入力があったときに通報

センサー無検知で通報

「＃71」で設定すると、指定された時間内にセンサーが検知しない場合に通報します。
○赤外線センサー・・・指定時間赤外線センサーが検知しなかったときに通報
○押しボタンセンサー・・・指定時間ボタンが押されなかったときに通報
○接点入力センサー・・・指定時間接点入力が無かったときに通報
センサーが検知すると経過時間がリセットされ、そこから指定時間までカウントし始めます。
通報が終了すると経過時間をリセットし、指定時間までカウントし始めます。
詳しい設定方法は21ページの「設定一覧」をご覧ください。

無検知時間

無検知で通報させる場合の指定時間は「＃72」に続く数字で設定します。
設定は30分単位で30分から99時間30分まで設定できます。
　例）30分なら「＃7230」と入力します。
　　　99時間なら「＃729900」と入力します。
＃72に続く2桁が時間で、時間に続く2桁が分です。
詳しい設定方法は21ページの「設定一覧」をご覧ください。

無線ユニット

赤外線センサータイプ

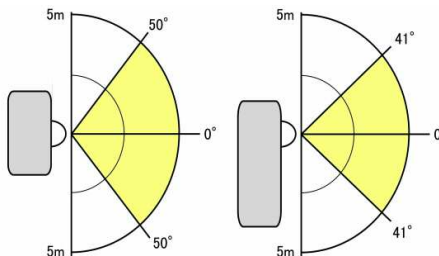
センサーは赤外線の変化を検出するMPモーションセンサーです。人体以外の熱源も感知します。また、熱源の温度変化および移動がない場合には、検出しないことがあります。ご使用の際には以下の状況に注意してお使いください。屋外で利用することはできません。

人体以外のものを検出する場合
- 人体以外の動物が検出エリアに入った場合。
- 太陽光、自動車のヘッドライト、白熱灯などの赤外線がセンサーに直射する場合。
- 冷暖房機器の温風、冷風や加湿器の水蒸気などにより検出エリア内の温度が急激に変化する場合。
- 通過する車両などを検知することがありますが、これは正常動作の範囲です。
- たばこの火などの強力な赤外線を発するものはまれに検知することがあります。

検知しにくい場合
- 検出対象物との間にガラスやアクリルなどの遠赤外線が透過しにくい物体がある場合は検知しません。例えば、車内と車外の赤外線を遮る窓ガラスが閉まっている場合などです。
- 検出エリア内の熱源がほとんど動かない場合や、高速に移動する場合。
- センサーに向かっていく動き。

センサーの検知範囲

検知距離	最大5m
検知角度（水平）	100°
検知角度（垂直）	82°

センサー上部から見た図　　センサー側面から見た図

センサーと本体との距離

センサーと本体との距離は、40坪程度の同一フロア内なら届きます。
※到達距離は構造物の種類によって異なります。
本体の無線受信用アンテナはケース内に収めてあります。ケースに3.3ミリの穴を開け、アンテナをケース外へ出すと受信できる距離が伸びます。

押しボタンタイプ

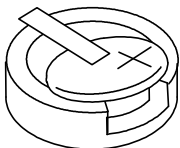
押しボタンタイプは押しボタンが押されたときに通報します。
節電のため連続押しは効かなくなっていますので、1度押した時は5秒くらい待ってから押してください。

接点入力タイプ

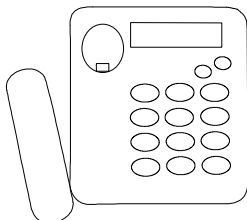
接点入力タイプは接点をショートさせると通報します。(チャタリングの時間はありません)
接点をショートさせた状態が長く続くと電池の消耗がわずかですが多くなります。

無線ユニットの電池

ユニットは3Vのリチウム電池で2ヶ月以上動作します（国産の電池を使用した場合)。
無線ユニットに検知させても本体の動作ランプが点灯しない場合は電池がなくなっている可能性があります。電池の交換は、無線ユニットの裏蓋のビス2本をプラスドライバーで外して中に入っている電池を交換してください。電池はリチウム電池 CR2032を使用してください。

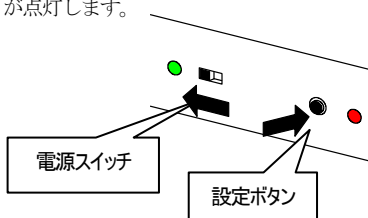
【交換方法】
取り外しは、手前の溝に爪楊枝など細いものを差し込んで電池を斜めにして、スライドさせて抜き取ります。取り付けは、新しい電池の正極(+)印が上に向くようにし、少し斜めにして電池の端を電池ホルダーに差し、押し込むと電池を装着できます。
※向きを逆に差し込むと故障しますのでご注意下さい。

通報先の電話番号の設定方法

通報先の電話番号を本装置に記録させます。設定後は電源を切っても記録が消えることはありません。

①**電話機の受話器を取ります。**

②電話機につながっている回線の電話番号をダイヤルし話中にします（受話器から話中の音が聞こえるのを確認します)。
※話中にしておかないと電話番号を設定中に通報先に電話がかかってしまう為です。
※設定時に通報先に電話がかかっても良い場合は、この操作を省いて③に進んで下さい。
※ダイヤル回線の場合
話し中にした後、電話機をトーン信号が発信できるように切り替えてください。

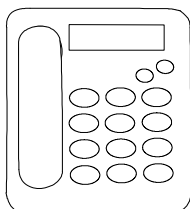
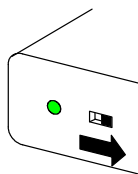
③本体の設定ボタンを押しながら電源スイッチをONにします。電源ランプ（緑）と動作ランプ（赤）が点灯します。

電源スイッチ

設定ボタン

④通報先の電話番号をダイヤルし、最後に「＃」を2回ダイヤルします。

例）通報先の携帯電話番号
「×××××××××××」の場合
↓
「×××××××××××＃＃」とダイヤルします。

⑤受話器から「プー」という音が0.5秒聞こえれば設定は完了です。
※受話器から何も聞こえない場合や、短い「プー」という音が5回聞こえた場合は、設定が出来ていませんので、もう一度最初から設定を行ってください。

⑥設定が完了したら受話器を置いてください。

⑦本体の電源スイッチをOFFにします。

0 発信で使用する場合の設定方法

手順は「電話番号の設定方法」の①～③、⑤～⑦は同じです。

④外線発信番号をダイヤルします。
0 発信なら「0」をダイヤルし、次に「#1」をダイヤルします。
※0 発信した後に 1 秒待たせる為です。
※2 秒待たせるときは、「#1#1」をダイヤルします。
続けて通報先の電話番号をダイヤルし、最後に「#」を 2 回ダイヤルします。

例）外線発信番号「0」
外線発信番号をダイヤルした後に 1 秒待つ
通報先の電話番号「××××××××××××」の場合
↓
「0#1××××××××××××##」とダイヤルします。

※通報先の電話番号に「#」を使用する場合は「#0」をダイヤルしてください。

「プー」という音が 0.5 秒聞こえれば設定は完了です。

プッシュ回線・ダイヤル回線の設定

本装置は電源スイッチを ON にした時に、接続されている回線がダイヤル回線かプッシュ回線かを自動的に判定しますが、PBX（内線交換機）では判定できない場合があります。
電話番号を設定したのに電話がかからない場合は、手動でダイヤル回線又は、プッシュ回線の設定を行ってください。
手順は「通報先の電話番号の設定方法」の①～③、⑤～⑦は同じです。電話番号を入力するのと同じように以下のボタンをダイヤルしてください。

④プッシュ回線（トーン信号）なら「#5」をダイヤルします。
ダイヤル回線（パルス信号）なら「#6」をダイヤルします。

「プー」という音が 0.5 秒聞こえれば設定は完了です。

※以上のように、電話番号の設定以外にも、動作の設定も個別に行います。

設定一覧

手順は「通報先の電話番号の設定方法」の①〜③、⑤〜⑦は同じです。
○電話番号を入力する代わりに以下のボタンをダイヤルし、動作を設定します。
○すべて「＃」に続けてボタンをダイヤルします。
○一設定ごとに本体の電源を切って下さい。

電話番号入力時

＃＃	電話番号入力終了
＃0	電話番号に＃が含まれる場合、＃だけではなく＃0 をダイヤルします。
＃1	外線発信番号を入力した後に 1 秒待つ場合は＃1 をダイヤルします。 2 秒待つ場合は＃1＃1 とダイヤルします。

呼出音の設定

＃2	呼出音を 1 回に設定（初期値）
＃3	呼出音を 3 回に設定
＃4	呼出音を 10 回に設定

回線の種類を設定

	自動判定（初期値）
＃5	回線をプッシュ回線（トーン信号）に設定
＃6	回線をダイヤル回線（パルス信号）に設定

通報条件

＃70	センサー検知で通報するモード（初期値）
＃71	センサー無検知で通報するモード
＃72	センサー無検知時間の設定 ※無検知時間を設定する前に、無検知通報「＃71」の設定を行っておいてください。 ※最短 30 分から最長で 99 時間 30 分まで 30 分単位での設定が可能です。 ※最後が 0 以外の場合は設定エラーとなります。 1 時間 30 分の場合→「＃720130」とダイヤルします。 12 時間 00 分の場合→「＃721200」とダイヤルします。

通報の種類

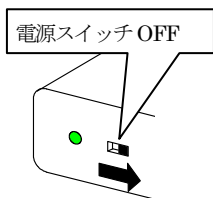
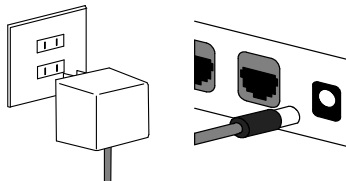
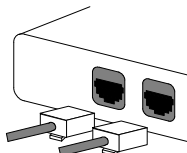
＃80	タダ電通報・・・呼出音を鳴らすだけの通報です（初期値）
＃81	通報先が電話に出るまで呼び出す。 通報先には、受話器を上げると「ピポパ」と音が聞こえます。
＃82	通報先が電話に出て「＃」を押すと通報終了。 通報先には、受話器を上げると「ピポパ」と音が聞こえます。

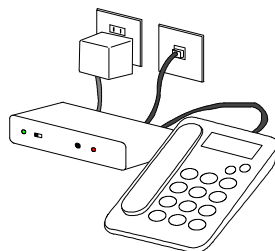
設定の初期化

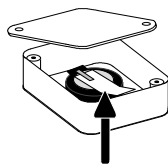
＃9	全ての設定を初期化します。 ・電話番号なし・呼出音 1 回・回線種別自動判定・センサー検知で通報 ・タダ電通報

WhiteLock22 の設置

WhiteLock22 本体と電話機を並列に接続する方法

①本体の電源スイッチを OFF にします。
矢印の方向が電源 OFF です。

②AC アダプタのプラグを本体に接続し、電源コンセントへも接続します。

③電話機と本体を並列に接続する場合。
本体にはモジュラージャックが 2 つあります。一方に NTT の電話回線を接続し、もう一方には電話機を接続します。※カチッと音がするまで差し込みます。

●電話機を使用する際に通報が始まると、受話器からピポパ音が聞こえる場合があります。自動転換器を接続すると聞こえません。

④接続完了です。

●自動転換器の接続方法は23ページを参照下さい。

⑤無線ユニットの電池に差し込んである保護プラスチック板を取り外します。
出荷時には無線ユニットの電池が消耗しないように、プラスチック板が挟んであります。
プラスチック板を外してから付属のビスで裏蓋をします。

自動転換器を使用した接続方法

自動転換器（先に電話回線を使用している機器以外の機器が電話回線を使用することを禁止する機能付き）を使用することに、電話回線を分配することが出来ます
※自動転換器はナカ電子の NT-325N を推奨します。（オプション品で販売しております）
※単純な分配器を使用しますと、通報中に電話機の受話器を上げた時に通報内容やプッシュトーンが聞こえます。

自動転換器 NT-325N

動作確認

設定が終わった際や、設定を変更した場合には、以下の方法で製品が正しく動作するかを必ず確認してください。
※赤外線センサーを使用した場合（タダ電通報に設定）の動作確認です。
①センサーが検知しない様にしておきます。（センサーにガラスコップを被せます）
②本体の電源スイッチをONにします。電源ランプ（緑）と動作ランプ（赤）が点灯しますが、その後動作ランプ（赤）が消灯するまで待ちます。
③センサーに検知させます。本体の動作ランプが点灯し電話をかけます。
④通報先の電話機の呼出音が鳴って（鳴る回数は設定で変更できます）電話が切れるのを確認します。
⑤動作ランプが高速点滅を始めます。また、センサーを検知させないようガラスコップを被せて下さい。
⑥60秒経過すると、動作ランプが消灯します。

動作モニタ

【電源ランプ】（緑）は電源が入っている間、点灯しています。

【動作ランプ】（赤）について

- 起動時

回線の自動判定を行う場合は動作ランプも点灯します。
判定が終われば動作ランプは消灯します。
※自動判定に約10秒かかります。自動判定をしない場合は、動作ランプは点灯しません。
※電話回線が本体に接続されていない場合、点灯・点滅を繰り返します。（各10秒ずつ）

- センサーが検知したら

《検知通報の場合》
1.動作ランプが点灯し、通報を開始します。
2.通報が正常に終了すると、動作ランプは高速点滅し始めます。（60秒間）
3.60秒間センサーの検知がなければ動作ランプは消灯します。
※60秒間内に再度検知すると、さらに60秒間検知しなくなるまで待機します。この間、動作ランプは高速点滅したままです。
※動作ランプが消灯した後に通報可能な状態になり、センサーが検知すると通報を開始します。
《無検知通報の場合》
動作ランプが高速点滅し始めます。（60秒間）
※60秒間内に再度検知すると、さらに60秒間検知しなくなるまで動作ランプは高速点滅します。

- 通報時

動作ランプが点灯します。（ダイヤルして電話を切るまで）

- 通報先が話中や圏外の場合

1.動作ランプが3秒間高速点滅します。
2.その後、10秒間低速点滅します。（リダイヤル待ち時間）
3.再度点灯し通報を試みます。
※通報が成功するまで繰り返します。

Ｑ＆Ａ

全般

Q．電話機と並列に繋がれていますが、混信しませんか。
A．通報時に電話機の受話器を上げると、音が聞こえます。自動転換器を使用すると、混信しません。設定をする時は、電話機を本体に接続して下さい。

Q．装置はISDN回線を使用できますか？
A．ISDN回線に直接接続することは出来ません。ターミナルアダプターのアナログポートをお使い下さい。リダイヤル規制のあるターミナルアダプターに接続した場合は、通報が遅れることがあります。

Q．通報先を携帯電話機にしていると何回も電話をかけてくるのですが。
A．WhiteLock22は呼出音が聞こえたら正常通報としますので、呼出音が聞こえない状態では何回も電話をかけてしまいます。例えばドライブモードにしていると、呼出音が鳴らずにアナウンスだけが流れます。また、留守番電話サービスの呼出音の鳴る回数を0回にしていても、呼出音が鳴らないので何回も電話してしまいます。

Q．内線発信に対応していますか？
A．PBXで使用される場合、下記のすべての条件と一致するか確認してください。
●受話器を上げたとき→DT(発信音)…400Hzの連続、または、PDT(内線発信音)…400Hz 0.25秒 ON 0.25秒OFFが聞こえること。
●相手が話中のとき→BT(話中音)…400Hz 0.5秒ON 0.5秒OFFが聞こえること。
●相手を呼び出しているとき→RBT(呼出音(プルプル音)…400Hz 1秒ON 2秒OFFが聞こえること。
●相手が電話を切断したとき→BT(話中音)…400Hz 0.5秒ON 0.5秒OFFが聞こえること。

Q．電話がつながらない
A．ビジネスホン回線、ホームテレホン回線、4線式電話機、専用線には接続することは出来ません。また、普通の電話機(一般家庭で使われている電話機です)を接続して使用できるか調べてください。交換機によっては、電話をかける場合特殊な番号、たとえば「#9」などを最初にダイヤルしないとかからないものもあります。

Q．PBXで電話がかかりません。
A．PBXで使用する場合、回線の種類の自動判定（パルスかトーンの判定）がうまく出来ない場合があります。回線の自動判定は行わず、お使いの回線に合わせて設定してください。設定方法は20ページを参照下さい。

Q．社内の内線が0発信ではなく「＊0」で外線に発信するようになっています。対応できますか？
A.「＊0」による外線発信は可能です。電話番号の設定で電話番号の前に「＊0」を入力してください。
待ち時間が必要な場合は「＃1」を続けて入力してください。
また、「＊0」で外線発信する内線で、「＊0」を押してから2秒後に「ＸＸＸＸＸＸＸＸＸ」へ通報した場合は「＊0＃1＃1ＸＸＸＸＸＸＸＸＸＸＸ」と入力してください。

Q．１本の電話回線で複数のWhiteLock22を使用したいのですが。
A．複数台のWhiteLock22が一つの回線に接続されていた場合、着信側でどのWhiteLock22から通報があったかの区別をする手段がありません。

Q．通報を受けたとき直ぐに音が鳴りません。
A．通報先が電話に出たのか判定で呼出音を３秒以上聞こえないことを確認している為です。呼出音が鳴るタイミングにもよりますが、受話器をあげてから１秒〜3秒後に「ピポパ」と音が聞こえます。（相手が出る通報の設定の場合）

Q．呼出音が鳴りすぐ受話器を取ると、また電話がかかってくる。
A．呼出音が３回以上鳴ってから受話器を取ってください。受話器を取るのが早すぎると、回線異常とみなし、もう一度電話をかけてきます。

Q．発信者番号を通知するには？
A．通報先に着信電話番号が表示されない場合、WhiteLock22が接続してある回線が「通常非通知」になっています。この場合は、通報先の電話番号を登録するとき、電話番号の最初に「186」を入力してください。

Q．現在の設定がどうなっているか知る方法はありますか？
A．ありません。設定内容が分からなくなった場合は、一旦「#9」で初期設定に戻してから、再度設定し直して下さい。

Q．保証はありますか？
A．はい、ご購入後１年間です。

Q．取り付けは素人でも出来ますか？
A．はい。無線ユニットは両面テープやマジックテープで壁や天井に付けられますし、本体はケーブルを差すだけです。接点入力無線ユニットの場合はプラスドライバーを使用します。

Q．装置を取り付けるところに電源が無いのですが。
A．充電された自動車用バッテリーを使うことで長期間の連続利用が可能です。その際には、オプション品の『DC/ACインバータ』をご使用下さい。

Q．装置の寿命は、どれくらいですか？
A．内部の部品に機械的な接点を使用していませんので、長寿命です。故障するケースで最も多いと考えられるのは電話回線や電源からカミナリが入る場合ですが、これはモデム通信装置などでも同様です。防止策としては業務用の避雷器を組み込むことで改善されます。

Q．業務用に使ったばあいに問題はありませんか？
A．まったく問題ありません。

Q．屋外に設置したいのですが。
A．製品は、防水暴雨仕様ではありません。水滴や、雨、粉塵等に晒される場所では適当な樹脂ケースに組み込んでください。

Q．誤動作などで電話代が多く請求されるようなことはありませんか？

Ａ．１．電話の仕組みとして相手が電話に出なければ当然電話代はかかりません。

２．電話を受けた側が電話を切ればその時点から電話代はかかりません。

３．2番目の場合に受話器を正しく戻さなかったときでも一定時間(120秒)経過すると電話を切るようになっています。いずれの場合であっても誤動作によって電話代が多くかかることはありません。安心してご利用ください。

Q．最呼び出しの回数が無制限なのは、なぜですか？

Ａ．確実に通報するためです。途中で止めては通報装置ではない、という考えだからです。

Q．通報を音声で受けたいのですが。

Ａ．WhiteLock22は音声を再生することができません。

接点入力で使用する「WhiteLock110A_RN」をお使い下さい。赤外線センサーが必要な場合は「検知センサーCM-02」と組み合わせてお使いください。

Q．携帯電話にタダ電通報をしていると何回も通報してくるのですが。

Ａ．タダ電通報は呼出音が聞こえたら正常通報となりますので、呼出音が聞こえない状態では何回も電話をかけてしまいます。例えばドライブモードにしていると、呼出音が鳴らずにアナウンスだけが流れます。また、留守番電話サービスの呼出音の鳴る回数を0回にしていても、呼出音が鳴らないので何回も電話してしまいます。

接点入力ユニット

Q．1つの接点入力ユニットに2つのセンサーを接続できますか？

Ａ．可能です。

Q．1つのセンサーを2台の接点入力ユニットに接続できますか？

Ａ．2つの無電圧接点信号を並列に接続する事は可能です。

仕様

形式	呼び出し音及び電話番号通知による非常通報装置
自動発信	無線赤外線センサー検知時、押しボタン押下時、接点入力短絡時、無線により本体へ送信後、本体より自動発信
電話回線	NTT 仕様で 2 線式のプッシュ回線、パルスダイヤル回線（20PPS）、PBX（2 線式外線発信回線）、ISDN 回線なら TA のアナログポート
話中検知機能	あり（話中及び通信が確立しないときにリダイヤル）
本体電源	AC アダプタ
無線ユニット電源	リチウム電池　CR2032
動作温度範囲	0℃～40℃
動作湿度範囲	15%～80%（結露なきこと）
周囲環境	腐食性ガスなきこと。粉塵等汚れの激しい場所での使用は、無線ユニットに影響のない様にカバー等で保護してください
呼出電話番号設定	通報先電話番号は 24 桁以内で 1 ヶ所。 並列に繋いだ電話機からプッシュボタン信号で行う。
本体寸法(mm)	125(W)×80(D)×33(H)
センサー寸法(mm)	35(W)×60(D)×20(H)　ケーブル、突起部分を除く
重量	本体：約 145g　　無線ユニット：約 35g
本体動作電圧	9.5V～10.0V
本体消費電流	30mA（最大 35mA）

履歴

2003 / 05 / 19 Ver 2.00
・センサー無検知で通報などの仕様を加えた。
2003 / 07 / 30 Ver 2.01
・無線ユニットの電池について修正。
2004 / 03 / 22 Ver 2.02
・仕様に動作電圧と消費電流を追加。
2004 / 10 / 01 Ver 2.03
・タダ電通報の料金を取られる場合の例を追加
2004 / 10 / 13 Ver 2.04
・例として載せていた電話番号を×××に変更した。
2005 / 03 / 31 Ver 2.05
・住所を変更
2005 / 06 / 08 Ver 2.06
・東京営業所の電話番号を変更
2005 / 02 / 06 Ver 2.07
・ホームページアドレスを追加、ユニットの電池寿命に関する記述を変更。
2006 / 03 / 01 Ver 2.08
・安全にお使いいただくために追加(電話番号の誤った登録についての注意)
2011 / 01 / 14 Ver 2.09
・東京営業所を削除
・雷による故障について追加
・その他細かい所の修正
2011 / 11 / 18 Ver 2.10
・無検知通報の検知した時の動作ランプ状態を追加
・取扱説明書が付属していないことを追加
・Q&A「接点入力ユニット」の修正
2012 / 09 / 20 Ver 2.20
・動作ランプの動作モニタ追加（電話回線に接続していない場合）
・自動転換器「NT-325N」をオプション品として販売している事を追加。

WhiteLock22

Ver 2.20

取扱説明書

改定　　２０１２年 ０９月

発行元　　　株式会社　アドコン

http://www.adocon.jp/

本社　　　〒690-2101 島根県松江市八雲町日吉 3-24

TEL (0852) 54-2036　FAX (0852) 54-2196